

# 平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（中学国語）

学校名 逗子市立久木中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p><b>結果の概要</b></p>	<p>平均正答数は全国平均、県平均をやや上回る結果であった。</p> <p>どの問題でも、全国平均、県平均をやや上回る結果であったが、封筒の宛名を書く問題で完答できる生徒数が唯一平均を下回る結果となっていた。</p>
<p><b>話すこと 聞くこと</b></p>	<p>○正答率は全国平均、県平均をやや上回る結果となった。また、無回答率は全国、県平均ともに下回る結果であった。</p> <p>●3二の記述問題では、全国、県平均よりも無回答率がやや上回っていたが、正答率は全国平均とほぼ一緒であった。また、条件が一部足りない正答に近い答えを書けた生徒は全国、県平均より上回っていた。精度をあげての回答力に課題があった。</p>
<p><b>書くこと</b></p>	<p>○正答率は全国平均、県平均をやや上回る結果となった。また、無回答率は全国、県平均ともに下回る結果であった。日頃から 200 字作文を取り入れ、書くことに対する抵抗感が少なくなっていることがこの結果から分かった。</p> <p>●数名の無回答の生徒に対するアプローチを検討する必要がある。</p>
<p><b>読むこと</b></p>	<p>○正答率は全国、県をやや上回る正答率であった。どの問題でも読み取る力を発揮できたことが分かる。</p> <p>●1三の記述問題で全国、県平均よりやや上回る無回答率であった。しかし、正答率は全国、県平均よりも高い。あきらめてしまう生徒に対する手立てを実施していきたい。</p>
<p><b>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</b></p>	<p>○4の問題記号選択問題の場合は、無回答率が0で、正答率も高かった。</p> <p>問題文も選択肢も読んだ上で正しく理解している生徒が多いことが分かった。</p> <p>●1四の問題に関して、完答率が全国、県平均ともに下回る結果となり、また無回答率は全国、県平均を上回る結果となっていた。封筒の宛名書きという実生活で使う場面の多い問いに対して課題を発見することができた。実生活につなげた授業づくりを行っていく。</p>
<p><b>生徒質問紙 国語に関する質問 問43</b></p>	<p>「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という問いに対する回答が全国、県平均ともに下回る結果となった。社会との関わり、国語を学ぶ意義について示しつつ、生徒とともに考えながら授業づくりにつなげていく。</p>



# 平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（中学英語）

学校名        逗子市立 久木中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p><b>結果の概要</b></p>	<p>○ 平均正答率は県平均や全国平均より高く、正答の生徒は平均を大きく上回る割合である。英語の基礎基本が定着している生徒が多いといえる結果なのではないか。</p> <p>● 正答率の低い生徒は全国や県平均と同じ割合である。このことから、英語に苦手意識をもっている生徒への個別の支援が必要である。</p>
<p><b>聞くこと</b></p>	<p>○ ほとんどの問いで良い正答率である。特に英文を聞いて絵を選択する問題では高い正答率であった。</p> <p>● 聞き取り把握した内容について、適切に応じる問題では、低い状況であった。また同じ問題では、無回答の生徒もいてあきらめてしまう生徒が多かったようである。授業で聞き取った内容を踏まえて、自分の考えや意見を表現させる活動を取り入れるなど、改善が必要である。</p>
<p><b>話すこと（参考値）</b></p>	<p>○ 全ての問題で、全国や県平均より高い正答率であった。特に短答式の問題、例えば交通手段に関する表現を理解し、適切に応答する能力等が身につけている生徒が多かった。</p> <p>● 与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話す問題や、即興でやりとりをする問題は正答率が低かった。これからの授業では単に自分のやりたいこと等を整理して伝えたり、情報を加えて話続けたりするような場を設定し支援したい。またやり取りをする機会を増やすことを授業で継続的に続けたい。</p>
<p><b>読むこと</b></p>	<p>○ ほとんどの問いで全国や県平均よりも高い正答率であった。特に選択式の問題では正答率が高かった。与えられた英文から情報を正しく読み取る力が身につけていると言える。</p> <p>● 説明文とその前後にある対話から、書き手が最も伝えたい内容を選ぶ問題では、県平均より低い正答率であった。また、英文を読んでその内容を踏まえ自分の意見を書く問いでも、正答率が低かった。継続的にまとまった長さの英文を読むこと、読んだ内容に対して自分の考えをまとめ伝え合う活動を取り入れるなど改善が必要である。</p>
<p><b>書くこと</b></p>	<p>○ 短答式や選択式で、知識に関する問題では高い正答率を示した。語や文法事項等を理解して正しい短い文を書く力は定着している生徒が多いと言える。</p> <p>● 与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある文を書く問題では正答率が低かった。授業で、まとまりのある文章を書く活動を取り入れるなどの改善が必要である。</p>
<p><b>生徒質問紙 英語に関する質問 問 54～66</b></p>	<p>○ 多くの生徒が、英語の授業がよく分かると答えている。</p> <p>● 即興で、自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動が行われていたかの質問に、「あてはまらない」と答えた生徒が、他の質問項目と比べると多かった。授業で継続的にこのような活動を取り入れることが必要である。</p>

## 平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（生徒質問紙）

学校名        逗子市立久木中学校

特徴的なことや課題と考えられること等

県、全国と対比して、以下の項目が有意的な差があると思われる。

国語について、(40)、(41)から、国語の学習に対して、意欲が弱いことがわかる。これは、(21)の読書が好きではない比率も高いことにも現れている。

数学について、(49)、(53)から、意欲が高く、粘り強く取り組もうとする姿勢が身につけていることがわかる。これは、数学の授業において「学び合い・教え合い」の展開を意識的に工夫し取り組んでおり、その成果が現れているのではないかと。このことは、(32)からも、「学び合い・教え合い」の授業が浸透してきて、生徒自身もこれにより、自分の考えを深めたり、広げたいと思っていることがわかる。

英語について、(25)、(26)について、外国の人や外国のことに関心が高いこと、(58)から、日常的に英語を使う機会が多いこと、(59)から、将来、英語を使う職業に興味が高いこと、(63)から、授業で英語で発表する機会や考えや気持ちなどを書く活動が多かったこと、がわかる。これは、英語の授業において、より実践的な活動を多く体験していることや、逗子という地域から外国人や外国の文化に振れる機会が多く、英語に対する関心や外国のことに對して興味が増していることが現れている。

ICTなどの視聴覚教材について、(30)から、逗子市は全教室にプロジェクタを導入し、これを使用している授業・教員が多く、生徒もそう受け取っていることがわかる。また、(31)から、さらに生徒自身でもさらに活用してみたいと思っている。これは、技術の授業、総合的な学習の時間などにおいて、PCを積極的に使用している効果だと思われる。

様々な教科内授業や総合的な学習の時間、行事に対する取り組み、学級活動、等に関わって、(34)から、課題を立てて情報を集め、調べたことを発表する学習活動の流れが身につけていること、(35)から、学級活動において、話し合う態度、意見を交わし、解決していく方策が身につけていること、(38)から、発表の場で、資料や文章、話の組み立てなどを工夫しようとしていることがわかる。

学校の規則について、(13)から、学校の規則を守ろうとする規範意識が少し弱いように思われる。また、部活動について、(27)、(28)から、運動部、文化部のどちらにも参加していない生徒の比率が高いことがわかる。本校は、校内の部活動以外で習い事やスポーツのクラブチームに所属している生徒も少なくなく、それが部活動に所属していない数として現れている。

学校生活全般について、(7)から、授業などにおいて教員が分かるまで教えていると感じ、(12)から、「学校に行くのは楽しい」と思っている生徒が多く、生徒が学校に通いたくなるような環境を整えることができているとよいのではないかと。また、(24)から、地域や社会について、よりよくしようとしている意識が高く、前向きな態度が養われている。

# 平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

学校名        逗子市立久木中学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

国語について、国語の授業内やそれ以外において、生徒の意識・意欲が高まるようなことを検討・実践していきたい。既に、短歌や俳句を教材に日本の文化により深く触れ合う機会を授業内で作り、現在も「朝読書」を朝学活内で実践しているが、読書指導や図書館教育と連携した取り組み等を、さらに取り組んでいきたい。

数学について、意欲が高く、粘り強く取り組もうとする姿勢が身につけていることがわかる。これは、数学の授業において「学び合い・教え合い」の展開を意識的に工夫し取り組んでおり、その成果が現れているのではないかと。また、生徒自身もこれにより、自分の考えを深め、広げていきたいと思っていることがわかる。現在も少人数授業を実践しているが、「学び合い・教え合い」を通して個々の力を伸ばしていきたい。

英語について、外国の人や外国のことに関心が高いこと、日常的に英語を使う機会が多いこと、将来、英語を使う職業に興味が高いこと、英語で発表する機会や考えや気持ちなどを書く活動が多かったことがわかる。より実践的な活動を多く体験していることや、逗子という地域から外国人や外国の文化に振れる機会が多く、英語に対する関心や外国のことに對して興味が増していることが現れている。英語も少人数授業・T T 授業・I E T の授業など、さらに実践的な活動を取り入れていきたい。

また、教科外の活動においても、課題を立て、学習活動を深め、「学び合い・教え合い」を実践し、興味や関心を深めることができている。今後も、今まで実践できていることは継続し、さらなる取り組みや挑戦を検討・実践していきたい。

学校の規則について、遵守しようとする規範意識が少し弱い傾向が見られるので、校内の生徒指導・生徒支援と連携し生徒理解を深め、日常の学校生活の中でまたは授業時間で教科と連携した指導を検討していく必要がある。

今年度、新学習指導要領の実施に向け、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を実施することができるよう校内研究をすすめている。【主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業研究】を研究のテーマに設定し、『見通しを持たせる授業法の工夫』をサブテーマに取り組んでいる。授業の中で「めあて」を明示し、授業の流れを視覚化する。「学びのプラン」を作成する。さらに生徒アンケートを実施し今後の授業に生かして行くことが出来るよう教職員も研鑽を積み、学校教育目標の達成に向け邁進していきたい。